

県内の外国人登録者数47,551人に増加

外国人登録者数調査（平成17年12月31日現在）の結果

三重県では、法務省の「在留外国人統計」調査に合わせて、毎年末、市町の協力を得て外国人登録者数を調査しています。調査結果の概要は以下のとおりです。詳細は資料編をご参照ください。

1. 調査結果概要

- ・平成17年末現在の三重県内の外国人登録者数は、47,551人（前年比3,930人、9.0%増）で、県内総人口に占める外国人登録者数の割合は、平成15年初めて2%を越えましたが、平成17年はさらに増加し過去最高の2.49%となりました（平成16年2.30%：全国第6位「法務省 在留外国人統計」）。なお、三重県の日本人人口は平成16年より2,042人減少しました。
- ・外国人登録者数は最近5年間で15,094人増加し、10年間で約2.31倍、平成元年の4.5倍以上となっています。
- ・国籍別では中国、ボリビア、フィリピンの増加率の高さが目立っています。ブラジルは、平成17年末は増加率8.2%、増加数では最大の1,564人でした。また中国は、平成17年末は6,562人で、韓国又は朝鮮と入れ替わって第2位となりました。全体としては、上位5カ国で登録者数の86.8%を占める一方、登録者の出身国籍の数は96カ国（前年比2カ国増）でした。
- ・市町別に見ると、外国人登録者数が最も多いのは鈴鹿市（9,094人）で、次いで四日市市（9,028人）、外国人比率は木曽岬町（4.66%）が最も高く、次いで伊賀市（4.56%）、鈴鹿市（4.55%）でした。

2. 国籍別内訳

順位	国籍	登録者数	構成比	増減数	増減率
1	ブラジル	20,659人	43.4%	1,564人	8.2%
2	中国	6,562人	13.8%	1,292人	24.5%
3	韓国又は朝鮮	6,411人	13.5%	-191人	-2.9%
4	フィリピン	4,249人	8.9%	604人	16.6%
5	ペルー	3,432人	7.2%	320人	10.3%
6	ボリビア	1,100人	2.3%	168人	18.0%
その他		5,138人	10.9%	173人	3.5%
三重県計		47,551人	100.0%	3,930人	9.0%

資料編：三重県内の外国人の状況について

平成17年12月末現在の三重県の外国人登録者数は、47,551人（前年比9.0%増）で過去最高を更新し、県内総人口に占める外国人の比率は、2.49%になりました（平成16年2.30%：全国第6位）。一方、県内の日本人人口は、平成15年から16年にかけて増加しましたが、17年は16年に比べ2,042人の減少に転じています。

外国人登録者数は、最近の5年間で15,094人増加し、10年前（平成7年：20,566人）の約2.31倍、出入国管理及び難民認定法（以下「入管法」という。）が改正される前の16年前（平成元年：10,441人）の4.5倍以上となっています。

1. 国籍別内訳

本県の外国人登録者数を国籍別にみると、ブラジルが20,659人で全体の43.4%を占め、以下中国、韓国又は朝鮮、フィリピン、ペルーと続いており、上位5カ国で86.8%を占めます。また、登録者の国籍の数は平成16年末に比べ2カ国増の96カ国に及びました。

ブラジルは、平成2年の入管法の改正以来毎年増加を続け、平成17年末には対前年比8.2%の20,659人となっています。

中国は、平成2年から増え続け平成17年末は韓国又は朝鮮を抜いて第2位に転じました。平成17年末には前年比24.5%増の6,562人と、前年（26.5%増）に引き続き大幅に増加しています。

韓国又は朝鮮は、平成2年の8,332人を境に減少を続け、平成17年末には前年比2.9%減の6,411人となり平成17年は第3位に転じました。

フィリピンは、平成8年以降10年間増加を続けており、平成17年末には松阪市で大幅（279人、34.2%増）に増加したのを始め、県内各地で増加し前年比16.6%の増で4,249人となっています。

その他ボリビアは、前年第8位でしたが、平成17年末には前年比18.0%増の1,100人となり、ベトナム、インドネシアを抜いて第6位となりました。

順位	国籍	登録者数	構成比	増減数	増減率
1	ブラジル	20,659人	43.4%	1,564人	8.2%
2	中国	6,562人	13.8%	1,292人	24.5%
3	韓国又は朝鮮	6,411人	13.5%	-191人	-2.9%
4	フィリピン	4,249人	8.9%	604人	16.6%
5	ペルー	3,432人	7.2%	320人	10.3%
6	ボリビア	1,100人	2.3%	168人	18.0%
7	ベトナム	1,011人	2.1%	41人	4.2%
8	インドネシア	909人	1.9%	-42人	-4.4%
9	タイ	833人	1.8%	54人	6.9%
10	米国	338人	0.7%	11人	3.4%
	その他	2,047人	4.4%	109人	5.6%
	三重県計	47,551人	100.0%	3,930人	9.0%

朝鮮とは、朝鮮半島出身者をいう。中国には、台湾出身者を含む。

国籍別登録者数上位5カ国の登録者数が多い市町は次のとおりです。()内の数値は、三重県内の同国籍の登録者数全体に占める割合です。

国 籍	第1位	第2位	第3位
ブラジル 20,659人	鈴鹿市 4,667人 (22.6%)	四日市市 3,749人 (18.1%)	津市 2,717人 (13.2%)
中国 6,562人	四日市市 991人 (15.1%)	伊賀市 765人 (11.7%)	津市 755人 (11.5%)
韓国又は朝鮮 6,411人	四日市市 2,190人 (34.2%)	桑名市 1,049人 (16.4%)	鈴鹿市 694人 (10.8%)
フィリピン 4,249人	松阪市 1,094人 (25.7%)	四日市市 658人 (15.5%)	津市 609人 (14.3%)
ペルー 3,432人	鈴鹿市 1,500人 (43.7%)	四日市市 470人 (13.7%)	伊賀市 397人 (11.6%)

2. 市町別内訳

市町別登録者数の上位10市町は以下のとおりです。上位7市町で登録者全体の79.0%を占めています。前年と異なる点は、松阪市が桑名市を抜いて5位になった点、及び前年10位であった伊勢市が8位になり前年8位であったいなべ市が10位に転じた点です。増加率を市町別に見ると松阪市での増加率が大きくなっています。

順位	市町名	登録者数	構成比	増減数	増減率
1	鈴鹿市	9,094人	19.1%	748人	9.0%
2	四日市市	9,028人	19.0%	521人	6.1%
3	津市	5,622人	11.8%	479人	9.3%
4	伊賀市	4,706人	9.9%	499人	11.9%
5	松阪市	3,546人	7.5%	417人	13.3%
6	桑名市	3,373人	7.1%	372人	12.4%
7	亀山市	2,194人	4.6%	129人	6.2%
8	伊勢市	1,379人	2.9%	41人	3.1%
9	久居市	1,124人	2.4%	124人	12.4%
10	いなべ市	1,098人	2.3%	70人	6.8%

四日市市・松阪市・亀山市・伊勢市はH17.12.31時点では合併後であるため、増減数・増減率は合併前の旧町分も含めてあります。

登録者数上位5市町における登録者数の多い国籍は、次のとおりです。()内の数値は、同市町内登録者数全体に占める割合です。

市町名	第1位	第2位	第3位
鈴鹿市 9,094人	ブラジル 4,667人 (51.3%)	ペルー 1,500人 (16.5%)	韓国又は朝鮮 694人 (7.6%)
四日市市 9,028人	ブラジル 3,749人 (41.5%)	韓国又は朝鮮 2,190人 (24.3%)	中国 991人 (11.0%)
津市 5,622人	ブラジル 2,717人 (48.3%)	中国 755人 (13.4%)	フィリピン 609人 (10.8%)
伊賀市 4,706人	ブラジル 2,691人 (57.2%)	中国 765人 (16.3%)	韓国又は朝鮮 412人 (8.8%)
松阪市 3,546人	ブラジル 1,347人 (38.0%)	フィリピン 1,094人 (30.9%)	中国 452人 (12.7%)

3. 市町別外国人登録者数の割合

総人口に占める外国人登録者数の割合が多い上位10市町は、次のとおりです。また16年は上位4位までであったのが、平成17年は上位5市町全てが4%代となりました。

順位	市町	外国人の割合	外国人登録者数	日本人の人口
1	木曾岬町	4.66%	332人	6,794人
2	伊賀市	4.56%	4,706人	98,540人
3	鈴鹿市	4.55%	9,094人	190,584人
4	亀山市	4.49%	2,194人	46,708人
5	河芸町	4.08%	760人	17,853人
6	香良洲町	3.88%	215人	5,331人
7	津市	3.39%	5,622人	160,321人
8	四日市市	2.90%	9,028人	302,237人
9	久居市	2.64%	1,124人	41,525人
10	東員町	2.54%	669人	25,661人
三重県計		2.49%	47,551人	1,861,024人

日本人の人口については、平成17年12月31日現在の住民基本台帳の人口です。

4. 外国人登録者数の推移

過去13年間の外国人登録者数の推移は次のとおりです。指数は入管法の改正以前の平成元年を100として計算しています。国籍別の構成を平成元年との比較で見ると、平成2年の入管法の改正後、劇的な変化が起こっているのがよく分かります。

年	外国人登録者総数(人)	対前年増減率(%)	指数
平成元年	10,441人	—	100
平成5年	18,688人	3.9%	179
平成6年	19,313人	3.3%	185
平成7年	20,566人	6.5%	197
平成8年	23,926人	16.3%	229
平成9年	26,856人	12.2%	257
平成10年	28,203人	5.0%	270
平成11年	29,199人	3.5%	280
平成12年	32,457人	11.2%	311
平成13年	35,524人	9.4%	340
平成14年	36,988人	4.1%	354
平成15年	39,838人	7.7%	382
平成16年	43,621人	9.5%	418
平成17年	47,551人	9.0%	455

年	登録者総数	ブラジル	韓国又は朝鮮	中国	ペルー	フィリピン
平成元年	10,441	521	8,256	581	83	459
平成5年	18,688	6,320	8,151	1,257	888	748
平成6年	19,313	6,504	8,025	1,293	1,025	918
平成7年	20,566	7,616	7,899	1,357	1,171	839
平成8年	23,926	10,259	7,702	1,476	1,430	966
平成9年	26,856	12,516	7,625	1,641	1,565	1,059
平成10年	28,203	13,248	7,492	1,748	1,671	1,157
平成11年	29,199	13,611	7,352	2,042	1,788	1,322
平成12年	32,457	15,574	7,182	2,425	2,057	1,635
平成13年	35,524	16,882	7,086	2,884	2,440	1,967
平成14年	36,988	17,064	6,933	3,413	2,630	2,202
平成15年	39,838	17,984	6,681	4,167	2,855	2,726
平成16年	43,621	19,095	6,602	5,270	3,112	3,645
平成17年	47,551	20,659	6,411	6,562	3,432	4,249

外国人登録者数の推移

